

# 健診センター

健診センター長 志田 勝義

日本人間ドック学会 指導医・専門医、人間ドック健診情報管理指導士

## 1. 2024 年度総括

2024 年度の総稼働件数は 5,264 件で前年比 192 件の増加がみられます。

内訳は、半日ドック 3,540 件、脳ドック 116 件、一般健診 907 件、生活習慣病健診 701 件です。

総稼働件数の増加の要因は、脳ドックは減少しましたが、半日ドック、生活習慣病健診、一般健診の増加が減少数を上回ったことによります。これは、検査体制の見直しによる予約枠数の増加が要因と思われます。

## 2. 人員

脳神経外科/院長	星 誠一郎
健診センター/センター長	志田 勝義
脳神経外科	西山 裕孝
小児科	三好 拓也
婦人科	立花 聡司
緩和ケア内科	清水 わか子

## 3. ドック健診実績

精検査指示件数は、上部消化管内視鏡検査 81/2,877 件(2.8%)、上部消化管 X 線造影検査 95/887 件(10.7%)、心電図 237/5,519 件(4.2%)、胸部 X 線検査 138/5,429 件(2.5%)、胸部 CT 検査 11/122 件(9.0%)、腹部超音波検査 87/3,628 件(2.3%)、マンモグラフィ 44/442 件(9.9%)、乳腺超音波検査 15/757 件(1.9%)、子宮頸部細胞診 1/705 件(0.1%)、便潜血検査 154/4384 件(3.5%)です。

追跡しえた精密検査の結果での癌診断件数は大腸癌 5 件、腎細胞癌 4 件、乳癌 3 件、胃癌 3 件、前立腺癌 3 件、膀胱癌 1 件、直腸カルチノイド 1 件となります。

諸検査数動向をみますと、健診者の希望に沿う形での検査体制の変更に伴い、上部消化管内視鏡検査は前年より 237 件の増加が認められます。それに呼応する形で上部消化管 X 線造影検査数の若干の減少を見ましたが、上部消化管検査を受けていただいた件数は増加しておりますので、健診者のニーズにあわせた検査体制の変更ができたと考えています。他の検査に関しては稼働件数の増加に伴い、不変から増加傾向です。

今回の当院の上部消化管 X 線造影検査における精密検査指示率は 10.0%となりました。これは、前年の 14.5%と同様に、日本人間ドック予防医療学会が推奨している 15%未満をクリアする結果となっております。しかし、他の検査と比較しますと 1 番高い値となっております。この理由は、学会の判定基準では慢性胃炎は C 判定とするところを、当院では粘膜萎縮の存在が明らかに疑われる慢性胃炎(萎縮性胃炎)に関しては、内視鏡による画像診断の必要性およびピロリ菌感染リスクを鑑みて精密検査指示とさせていただいている方針を継続しているためと思われます。

当院の精密検査指示率が高いということに関しては、2020 年に人間ドック健診施設機能評価受診の際に、医師サーベヤーの先生との面談にて理由と意図を十分に説明させていただいて、ご了承をいただいております。

引き続き当院といたしましては、将来的に胃癌発症リスクが高いと思われる症例を積極的に内視鏡検査に誘導していくことにより、胃癌撲滅へ寄与していきたいと考えております。

2024年度も様々な悪性腫瘍の存在が疑われましたが、目を引きまされたのが、腎細胞癌が4件を数えたことです。ドック健診の腹部エコー検査で偶然見つかることの多いもので、これを見落とさずに精査加療にご案内できたことに安堵いたしました。全例とも手術は当院ではございませんでしたが、当院にて治療まで完結できない領域の癌腫症例におきましても、後日受診時の当院での精査にて確定診断が得られ、速やかなる紹介の後に適切な治療をお受けいただいたという報告をいただいております。

このことは以前より当院健診センターの基本方針とさせていただきます「健診センターの使命である早期発見にとどまることなく早期治療にまでつなげてこそが二次予防機関の役割である」ということが実践できているものと考えております。今後も継続して取り組んでいきたいと思っております。

また、当院では診療該当科のない癌腫症例におきましても、他医療機関受診の後に適切な治療をお受けいただいたと報告を受けております。ご協力いただきました近隣の医療機関の皆様へ御礼を申し上げます。

追跡しえた消化管癌診断数では大腸癌5件、胃癌3件を数えました。診断数は前年度と同数ですが、昨年度は全例が早期発見であったため全症例にて内視鏡的治療を施行し外科的開腹手術を追加することなく治療を終了可能でしたが、今回は大腸癌2症例で外科的開腹手術が行われております。

2症例共に当院にて継続的にドックをご利用いただいていた健診者で、数回にわたり便潜血反応陽性にて精査指示を出させていただいておりましたが、理由は不明ですが、内視鏡検査を受けておられなかったようです。そのうちの1症例は、その後、腹部症状が出現したために、当院外来を受診され、速やかに精密検査、治療へと進まれたと報告を受けました。このことは予防医療分野での大きな課題であり、且つ当院ドック健診受診後のフォローアップ体制の確立および更なる充実が急務であることを再認識させられた出来事となりました。

#### 4. 2025年度の方針

以前より、当院ドック受診後の精査未受診率の減少を目的とした既存のフォローアップ体制の改善と新たなフォローアップ体制の確立を目的として取り組んでまいりました。2024年度より、精査目的に受診しやすい環境整備の試みとして、まずは消化器領域に特化したフォローアップ外来を開設させていただきましたが、いまだ道半ばであるということを感じることができました。

健診者本位の最良の健康診査の提供を目指していくという、当院健診センターの基本方針を推し進めていくことはもちろんですが、ドック健診を受けた健診者が、当院に精密検査を目的として受診しやすい環境を構築することも、引き続き推し進めて参りたいと思っております。

当院健診センターは、今後も受診者の皆様に健康で、且つ実りある人生を提供するために、職員一同努力していく所存です。